



議会で向き合った暮らしとまちの課題

民間まちづくりの自立・自走

市民や事業者による地域活性化の取組を支援する「民間まちづくり活動支援事業(マチカツ)」。補助をきっかけに始まった活動が、支援終了後も自立して続いていくかが大切です。(事業費を全額補助する学生枠もあります)

継続率や評価の在り方を確認しつつ、自立・自走につながる制度運用を求めています。



中学校部活動の地域展開

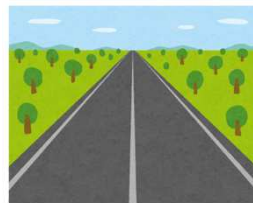
全国的に進められている「中学校部活動の地域展開」。生徒が継続して活動できる環境を、学校外の団体や指導者が支える仕組みです。新年度は沼津高専と連携した指導者研修や、市内の学校施設を校区に限らず活用しやすくなる取組を進めます。

「誰もが無理なく参加できる」体制となるよう求め続けます。



沼津南一色線の整備

都市計画道路沼津南一色線は、東名・新東名や国道246号と市街地を結ぶ重要な幹線道路で、整備による渋滞緩和や通学路の安全向上が期待されます。沿線には高尾山古墳があるため、古墳区域に立ち入らない工事の方法を採用しています。文化財保護と地域生活の両立、住民への丁寧な対応を求めています。



スポーツで広がる交流と賑わい

スポーツは交流人口の拡大や地域のつながりを生み出す力を持っています。アスルクラロ沼津は、県東部地域に賑わいをもたらしてきたチームであり、Jリーグ参入を目指した十数年前から議会の立場で関わってきた、思い入れのあるクラブです。

Jリーグへの再参入を目指す取組を、今後も後押ししていきます。



きょうだいがいる家庭の負担を軽減 ～放課後児童クラブの利用料支援～

放課後児童クラブは、保護者が働いているなどの理由で、放課後や長期休みに家庭での見守りが難しい小学生が安心して過ごせる居場所です。開所時間の拡大などの利用者ニーズに対応しつつ、運営の安定性を高めるため、令和7年度から専門事業者による運営体制へと移行しています。

令和8年度からは、子育てしやすい環境づくりの一環として、多子世帯の経済的負担に配慮した利用料の軽減措置(第2子以降一律半額)を実施します。引き続き、受け入れの状況や運営の質について、一つひとつ丁寧に確認していきます。



産業と雇用・起業の循環づくり

企業立地支援とは、市内に事業所を新設・移転する企業に対し、用地取得や設備投資の一部を支援する制度です。直近の5年では20件の立地、173人の市民雇用が生まれています。若い世代が地域に根付くよう、伴走支援の強化や起業支援との連動を求めています。



デジタルで変わる暮らし

デジタル技術を活用して暮らしを便利にする取組が各地で進んでいます。沼津市でも「X-Tech NUMAZU」として書かない窓口・自動運転・農業分野の実証などを行なっています。

「市民が実際の暮らしで実感できる」取組となることが大切です。



人口減少対策と都市の更新

人口減少は、まちの整備・仕事・子育てなどが互いに関わる課題です。新年度予算では、駅周辺整備や再開発をはじめ、企業立地や起業支援、給食費無償化や放課後児童クラブの負担軽減などを進めます。

暮らし・仕事・まちの魅力などを一体で高めていくことが重要です。



大型事業と財政の健全性

新たな土地の創出などにより、まちの価値を高める鉄道高架や、安定した廃棄物処理を実現する新中間処理施設の整備は、将来の沼津にとって欠かせない事業です。国の支援制度を活用するなどにより、将来の財政運営に無理がないと判断した上で、新年度予算に賛成しました。



高校生の声を議会へ～通学防犯の請願が市の取組に～

「通学路が暗くて不安」といった高校生たちの声

『安心して通学できる環境を求める請願』

議会での審議

市の取組

昨年、高校生から出された「安心して通学できる環境を求める請願」に、紹介議員として関わりました。防犯灯の増設や見守りの強化、一戸一灯運動（門灯や玄関灯を一晩中点灯し、犯罪が起きにくい環境をつくる取組）などの実施を求める内容で、紹介議員として私から議会に必要性を伝え、請願は可決されました。

今回の議会では「一戸一灯運動」を推進することが、市より答弁されました。また、同時期に別の高校生から提出された請願の内容である「AEDの普及」も、市の取組が進みます。

市民の声を受け止め、制度や予算につなげていくことは、議会に求められる大切な役割です。引き続き、鋭意取り組んでいきます。



ぬまづ昔ばなし

沼津市の土地を有料駐車場として貸し出して利益を得ていたとして、市と現職の議員が争っていた不当利得請求事件は3/13に和解により整理。争点となった土地の所有権は市にあることや、現職議員が市に解決金71万円を支払い、182万円で土地を買い取るといった内容での決着。ぬまづ昔ばなし 第13巻「浮島沼のめじかおじか(浮島地区)」は4月に発刊予定。

